

図の上部には、次の口上がある。

高ふは御座りますれど御めんを蒙りまして  
是より口上をもつて申上まするまづは  
御町中様益御機嫌よく御座遊ばされ  
恐悦至極に存じ上奉りまする随ひ  
まして当芝居御ひのみ厚き御取立ゆへ  
かやうに顔見世きやうけんも仕相替らず  
御目見へ申上まする段惣座中は申に及ず  
しばるかゝり合の者共迄一同に心魂に微(徹)し  
有がたき仕合に奉存まするわけまして  
申上まするは是に扣へましたる坂東叢助義に御座りまする  
先年上方表へ罷登り彼地芝居へ暫く出勤仕居りましたる所  
此たび座中打寄坂東三津五郎へ右叢助義を呼下し  
当顔見世より当座へ出勤致しまするやう是成る三津五郎へ

申聞せましたる所三津五郎義申まするにはいまだ芸にも  
未熟なる叢助義何れも様の思召も如何と再三  
辞退仕まするを又々一座打寄達而と相進め漸々承知  
致させ則坂東叢助呼下しまして当顔見世狂言より  
出勤仕まするやうに御座りまする誠に御江戸根生の  
坂東叢助義に御座りますれば何卒已前に  
相かわらず御ひのみ御取立のほどひとへに希上ケ  
奉りまするまづは坂東叢助  
御目見へ口上すみからすみまで乍憚  
ついと左やうに思召下さりますやうねがひ上奉り

まする